

はじめに

気管支喘息，COPD（慢性閉塞性肺疾患），咳喘息などに吸入療法が広く用いられるようになってきた。それに伴う治療効果はそれ以前に比べると隔世の感がある。吸入ステロイドの登場は気管支喘息の治療を大きく変え，吸入ステロイド／長時間作用性 β_2 刺激薬配合剤（ICS/LABA 配合剤）の登場によって喘息コントロールはさらに向上している。COPDの治療においても，長時間作用性抗コリン薬は欠かすことのできない薬剤であり，現在では長時間作用性抗コリン薬／長時間作用性 β_2 刺激薬配合剤（LAMA/LABA 配合剤）が登場した。今後，ますます薬物療法の進歩が期待される。

一方で吸入療法は有用な治療法であるが，その効果は吸入薬剤の成分のみならず，吸入手技にも大きく依存している。吸入薬の投与によっても症状が改善しないとき，薬剤を増量するより吸入手技を見直すことにより，喘息コントロールが改善されることもよくあることである。

吸入療法により予期した効果を十分発揮するためには医師をはじめ，薬剤師，看護師といったコメディカルによる正しい吸入指導が重要となってくる。しかし，近年様々な吸入デバイスが開発されており，それぞれ吸入手技が異なるため患者さんへの吸入指導に困惑することがある。

それぞれの方が吸入手技の情報を得ることは必ずしも容易ではない。本書では現在までに市販されているすべての吸入薬を網羅し，それぞれについて吸入手技に重点を置いて解説させていただいた。本書を座右に置いておく必要に応じて参照することが出来て便利であるとともに，正しい吸入療法の普及に役立つことを念じている。

本書の作成に当たっては各製薬会社のご協力を受けたわけで心から御礼を申し上げます。

2016年5月

東京大学名誉教授
国立病院機構相模原病院名誉院長
日本臨床アレルギー研究所 所長
宮本 昭正